

令和元年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	認知症カフェ・かきつばたの運営	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	社会福祉法人 翡翠会	高齢者支援課

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付決定額）
	639,587 円	268,651 円	268,651 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

○認知症患者ご本人とその家族の思いや苦しみを共有し、相談できる場の提供や社会参加の機会を提供する事で、「認知症になっても、住み慣れた大網白里市で暮らし続けたい」という願いにこたえる。

○毎月 2 回（第 2・4 木曜日） 11：00～14：00 開催

○小規模多機能型居宅介護事業所 かきつばた内
大網白里市南横川 1726-6

○近隣住民全てを対象とする

○喫茶・昼食を安価で提供し、憩いの場として事業所の一部を開放。

大網白里市地域包括支援センター職員やかきつばたを始めとする居宅介護支援事業所の協力により、個別相談を実施する。ボランティアにも積極的に声掛けし、コミュニティの醸成を図る。

○広報活動は市と協力し、市のホームページや広報誌への掲載、公共機関へのポスター掲示や回覧板でのチラシの配布等をおこなった。

○大網ロータリークラブや協働事業採択のボランティア団体、企業の協賛により子ども食堂を開催。大網ロータリークラブの協賛で市内の中学生以下の児童に無料で食事を提供した。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

- 事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。
- 協働で行うことでどのような効果が得られたか。
- 住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。
- 事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

○認知症の方やご家族だけでなく、地域住民の全てが参加できており、「誰でもくつろげるカフェ」として、居場所づくりができるように心掛けた。

○市と共同で行う事で、市民への広報周知が円滑に行えた。本市が管理するホームページや広報誌、公共機関への掲示物等を活用できたことは、多くの市民の目に触れる機会となり、また活動の信頼性を高めることができた。周知については、出前講座のDMが最も効果的で、次いで「いきいき元気クラブ」でのチラシ配布だった。

○出前講座を開催することで、その後のカフェへの参加者も増え相乗効果があった。認知症への啓蒙となる「認知症サポーター養成講座」だけでなく、健康講座や防犯・交通安全講座等、60～70代の元気な高齢者の方々に対しても参加が増え、リピーターも増加した。

○市広報でボランティアを継続的に周知することで、ボランティアが少しずつ増えてきた。「お菓子作り」等、役割を絞ったことも功を奏した。

○子ども食堂については、大網ロータリークラブの資金的・人的援助が大きかった。ボランティアも毎回10名以上の参加があり、大網白里市郷土芸能保存会ともコラボが実現するなど、他団体とも連携し大いに盛り上がった。

協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 （理由） 初年度平均の12名／日に比べ、今年は20名、年間延べ440名の参加であり、年度末の感染症影響による中止を差し引いても堅調していると考えられる。	<input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 （理由） お互いの仕事や役割の理解が進み、市の認知症施策の推進や、介護サービス利用者を介しての協働ができるようになった。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・カフェの運営 メニュー開発・調理・盛付・提供 ・各署への協力要請（RC・企業・ボランティア団体等） ・イベント企画（子ども食堂） ・広報デザイン（チラシ・HP・SNS） 	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェかきつばたのPR活動 広報紙・ホームページ、区長回覧・チラシの配布・公共機関やスーパーにポスター掲示、ふれあいいいききサロン・老人クラブ等で告知した。 ・カフェかきつばたや子ども食堂において出前講座として認知症サポーター養成講座を開催した。 ・カフェかきつばたに毎回職員が参加し、相談を受けられるように体制を整えた。

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） 子ども食堂の開催など他団体やボランティアの方に協力、コラボを依頼する事でイベントの開催が成り立っている。同じ介護事業所や民生委員との関係が持てるよう、市と協力して広報活動などを行った。	<input checked="" type="checkbox"/> 適正であった <input type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由）

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
4月11・25日カフェ開催	4月11・25日実施（参加者：11名・16名）
5月9・23日カフェ開催	5月9・23日実施（参加者：17名・16名）
※9日「あんとんねえさ～」開催	※9日「あんとんねえさ～」実施
6月13・27日カフェ開催	6月13・27日実施（参加者：15名・27名）

<p>※27 日出前講座「認知症サポーター養成講座」開催</p> <p>7月 11・25 日カフェ開催</p> <p>※11 日「あんとんねえさ～」開催</p> <p>※25 日出前講座「ピロリ菌と胃がんの関係」開催</p> <p>8月 8・22 日カフェ開催</p> <p>8月 10 日 子ども食堂開催。子ども向けの認知症サポーター養成講座も同時開催。</p> <p>9月 12・26 日カフェ開催</p> <p>※12 日「あんとんねえさ～」開催</p> <p>※26 日出前講座「消費者トラブルに気を付けて！」開催</p> <p>10月 10・24 日カフェ開催</p> <p>※24 日出前講座「甘く見ないで糖尿病」開催</p> <p>11月 14・28 日カフェ開催</p> <p>※14 日「あんとんねえさ」開催</p> <p>※23 日 子ども食堂、大網白里市地域芸能発表会開催</p> <p>12月 12・26 日カフェ開催</p> <p>※12 日出前講座「交通安全・防犯講座」開催</p> <p>1月 9・23 日カフェ開催</p> <p>※9 日「あんとんねえさ～」開催</p> <p>※23 日出前講座「65歳からの食生活改善講座」開催</p> <p>2月 13・27 日カフェ開催</p> <p>※27 日出前講座「ロコモティブシンドロームについて」開催</p> <p>3月 12・26 日カフェ開催</p> <p>※12 日「あんとんねえさ～」開催</p> <p>※28 日子ども食堂開催</p>	<p>※27 日出前講座「認知症サポーター養成講座」実施</p> <p>7月 11・25 日カフェ実施</p> <p>※11 日「あんとんねえさ～」実施</p> <p>※25 日出前講座「ピロリ菌と胃がんの関係」開催</p> <p>8月 8・22 日カフェ実施</p> <p>8月 10 日 子ども食堂開催。子ども向けの認知症サポーター養成講座も同時実施。</p> <p>9月 26 日カフェ実施</p> <p>※12 日「あんとんねえさ～」中止</p> <p>※26 日出前講座「消費者トラブルに気を付けて！」実施</p> <p>10月 10・24 日カフェ実施</p> <p>※24 日出前講座「甘く見ないで糖尿病」実施</p> <p>11月 14・28 日カフェ実施</p> <p>※14 日「あんとんねえさ」実施</p> <p>※23 日子ども食堂、大網白里市地域芸能発表会実施</p> <p>12月 12・26 日カフェ実施</p> <p>※12 日出前講座「交通安全・防犯講座」実施</p> <p>1月 9・23 日カフェ実施</p> <p>※9 日「あんとんねえさ～」実施</p> <p>※23 日出前講座「65歳からの食生活改善講座」実施</p> <p>2月 13 日カフェ実施</p> <p>2月 27 日カフェ中止。</p> <p>※27 日出前講座「ロコモティブシンドロームについて」中止</p> <p>3月 12・26 日カフェ中止</p> <p>※12 日「あんとんねえさ～」中止</p> <p>※28 日子ども食堂中止</p>
---	---

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体

- 適正であった
- 概ね適正であった
- あまり適正でなかった

(理由)

本年度は出前講座の回数を増やし、子ども食堂は前年同様3回を予定していた。また、九十九里地域認知症家族の会「あんとんねえさ」の開催場所として誘致し出前講座のない週に開催していただいた。年末年始など集客の落ち込む時期はあったものの、出前講座の日程を中心に多くの方に来ていただけている。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例: ○○を購入したことにより○○のスキルが上がり、効率的に活動できた。○○活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

本事業を通じ、市地域包括支援センターや在宅介護支援センター等の関係機関との連携が増した。

また、事業所自体の市民への認知度も上がり、本体事業運営も好転し、相乗効果が得られている。

2月末から新型コロナウイルスの影響により、カフェ、出前講座、子ども食堂と中止せざるを得なかった。開催回数が少なくなってしまったもののカフェのみの参加人数を見ると前年より増加しており、出前講座や広報活動によって新規の方も増えていると思われる。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input type="checkbox"/> 強化、活性化した <input checked="" type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した <input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった (理由) 前年同様に継続して日程、開催場所を変えずに行っている事、民生委員の総会やケアマネへの広報活動など露出の機会を広げる事で新しく来られる方をはじめ、何度となく足を運んでくださるリピーターの定着があった。

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
前年同様に出前講座を活用する事で、講師への謝礼を必要とせず、参加者への啓蒙・学びを提供でき、集客増につながっていると考えられる。また、九十九里地域認知症家族の会「あんとんねえさ」の開催を誘致し有意義なお話の場として空間を提供でき、来てくださったご家族、待機されている地域包括の方やケアマネージャー、そしてかきつばたの職員にとってもよい学びの場としてメリットがあったと思われる。
市
<ul style="list-style-type: none">・3年間事業を協働し、今後も様々な面で協働できる関係をつくる事ができたと思います。・立場の違う市と団体ですが、お互いが持っている技術や能力、施設等を有効利用し、逆に足りないものを補いあい、協働することでよりよい事業展開ができることを実感でき、市としては、市民目線や高齢者・障がい者に対する想いを団体から学べたことはとても有意義であったと思います。・地域包括支援センターで担当する方は独居や認知症など、介護サービスに結びつけられない困難ケースが多いため、翡翠会のケアマネージャー・管理者等に相談させていただき、通所や入所につながったことで安心して生活できるように環境を整えることができた高齢者も多く、市の認知症施策の推進につながっています。・今後も良い関係を保っていけるよう協力していきたいと考えています。

また、その協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<p>☑ 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。</p> <p>（理由） 集客においてはどの月も一定数のお客様に 来訪していただける様になったと感じら れる。開催日の参加人数を比べれば出前講 座の日程に集客があるのは明らかである。</p>	<p>☑ 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。</p> <p>（理由） 市と団体の職員間の連携が深まり、今後 様々な場面で協働が可能になったと思ひ ます。</p>